

総合特別区域評価・調査検討会における評価結果の概要(令和元年度)

2. 分野別状況(2)地域活性化総合特区 ②ライフ分野 (4/10)

	総合評価 (IとIIとIIIを1:1:2の割合で計算)	I	II	III	総合評価に係る専門家所見(主なもの)
		目標に向けた取組の進捗	支援措置の活用と地域独自の取組の状況	取組全体にわたる事業の進捗と政策課題の解決	
さがみロボット産業特区 (神奈川県)	4	4.4 進捗度 ・生活支援ロボットの導入施設数 171% ・実証実験等の実施件数 139% ・生活支援ロボットを体験する取組に参加した人数 102% 等	3 規制の特例等 ・医療機器製造販売承認等の手続の円滑化(薬事法)等 地域独自の取組 ・「セレクト神奈川NEXT」等による企業誘致の促進等	4.2	<ul style="list-style-type: none"> 生活支援ロボットの開発、実証実験、商品化、商品認知や施設導入などのマーケティングすべての段階で成果を挙げていることが高く評価できる。服薬支援、介護支援ロボットの実装などを集積し、好事例として全国に発信してほしい。 地域独自の取組において、きめ細かな支援が実施され、実証実験の段階から実用化への移行の可能性の兆しがみられる点を評価したい。 ロボット事業の成果を判断するには、特区の取組みに参加する県内中小企業の数増加は必須であり、対策を急ぐ必要がある。 令和2年度の目標を上回って達成している評価指標(5)については、目標の上方修正や新たな評価指標の検討が必要である。 生活支援ロボットは、施設スタッフの反対や運用コストの高さから、ロボットが施設に導入されても使われていないケースが多い。最終的には生活の中でロボットが役立っていることが重要なので、ロボットの導入施設数に加えて、活用度(稼働率)や効果(人件費削減、利用者のQOLなど)の指標を検討するとよい。